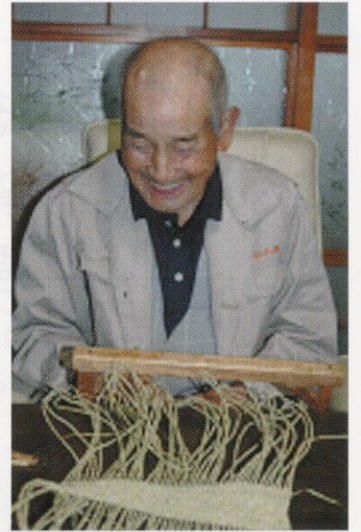




「イジッコ」とは民具のこと



阿久津さんの作風は繊細かつ上品で民芸品としての趣を併せもっている。

水に強く繊維が丈夫な岩芝が、イジッコの素材に使われる。そのイジッコを上手に作るおじいちゃんが近所にいた。そのおじいちゃん、八木沢久さんに阿久津さんは手ほどきを受けた。
ところがこの師匠、肝心な、作品に丸みをつける作業は教えてくれない。自分で考える——と。
どうしたら作品に丸みが出るか？
……この探究心が自分の創意を刺激した。今になって師匠の配慮を感謝している。
——阿久津さんは当時の気持ちを語ってくれた。



採取した岩芝(下)と一年陰干した岩芝

地元では素材に使われるカンスゲを岩芝と呼んでいる。岩芝は栗山の沢の斜面地で採れる。



阿久津徳次郎さん
日光市指定無形文化財

「昔の人はこういう根気のいる仕事を忍耐強くこなしたもんです」阿久津さん九十三歳の笑顔が何とも優しい。

■ 縄をよる 縄よりは力仕事で根気のいる作業

陰干しにした岩芝を煮え湯で柔らかくしてから縄よりをする

陰干しした岩芝を縄よりに適した葉幅に揃えてよる。真ん中で二つに裂いて、さらに二つに裂いて太さを揃える。手のひらを強くこすりあわせて縄よりする。

縄よりのポイントは、より戻しの利いた縄を、かたく一定の太さで、しっかりとより上げること。

「縄よりが難しい、と言ってあきらめる人が多いですね。」阿久津さんのお話し。



縄よりして束にする。

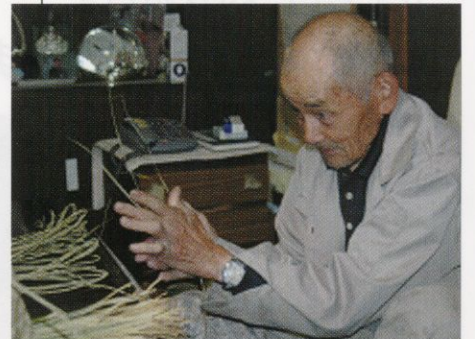


底編み型(木の枠)を使って縄掛けする。側面は風通し窓を両面に編み込み、仕上げはひもを通す。

底編み



■ イジッコを編む



●資料作成にあたり日光メディアボランティア倶楽部(須藤一郎代表)の皆さん、とりわけ加藤淳さんのお世話になりました。